

One step smile学習会資料

令和3年3月29日

相談支援事業所 サンクスシェア
高倉 満彦



子どもたちがハピネスキッズに来ました。
下駄箱にくつを脱いで入れてほしいのですが
くつを片付けてくれませんか・・・
どうしてでしょう？



早く遊びたい！



どこに片付けたらよいのかわからない！



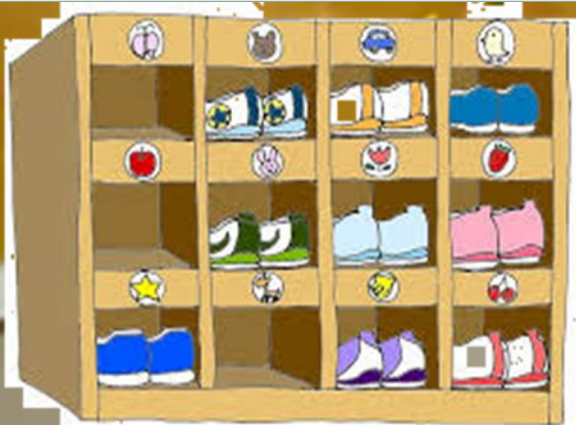
事業所の中に入りたくない理由がある



何をしたらよいのかわからない！



子どもの行動の理由や背景を考えることが重要
⇒ 支援の方法見えてきます



ハピネスキッズの一日の活動の流れ

療育（発達支援）とは、障害のあるお子さまやその可能性のあるお子さまに対し、**個々の発達の状態や障害特性に応じて、今の困りごとの解決と、将来の自立と社会参加**を目指し支援をすることです。

9時 10時 11時 12時 13時 14時 15時 16時 17時 18時

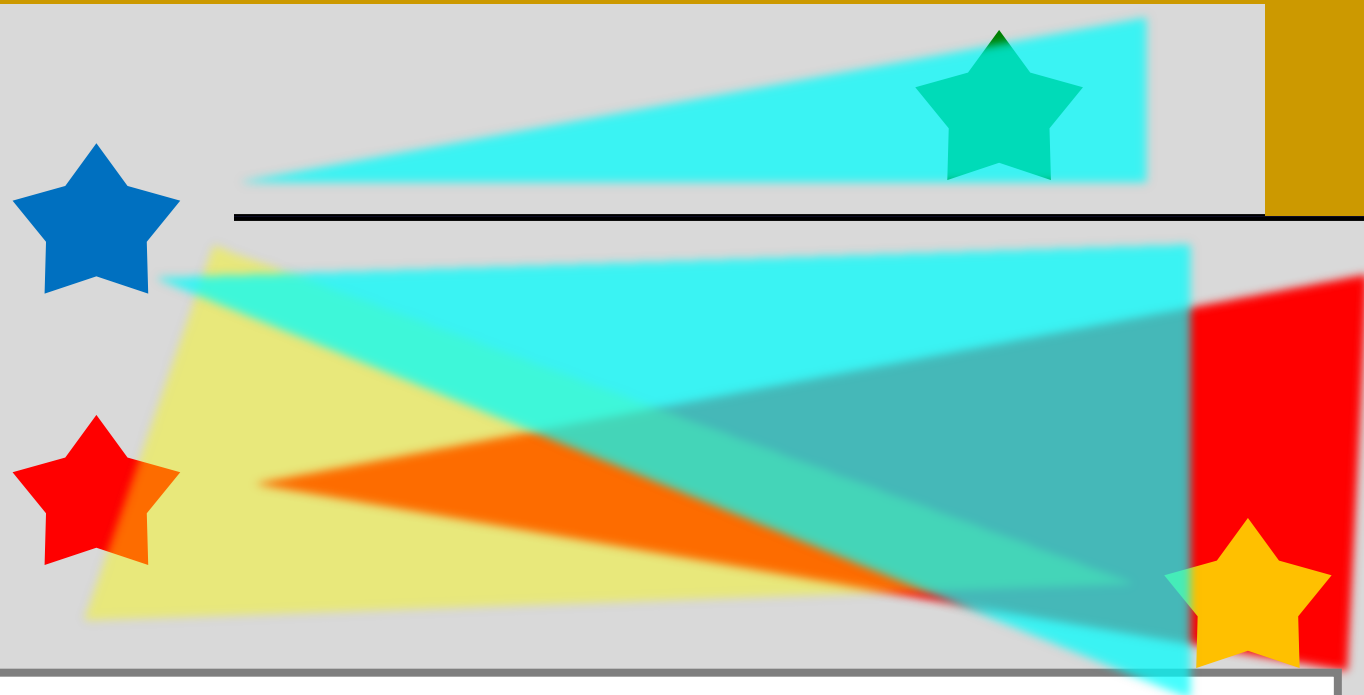
送迎 	課題	プログラム活動 	昼食	課題 自由遊び	集団遊び	おやつ	自由遊び	帰りの会等	送迎 
---	----	---	----	------------	------	-----	------	-------	--

療育活動（発達支援）

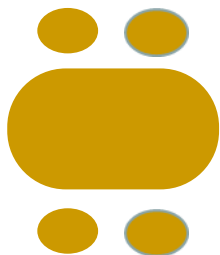


どの時間が療育の時間なのでしょうか？

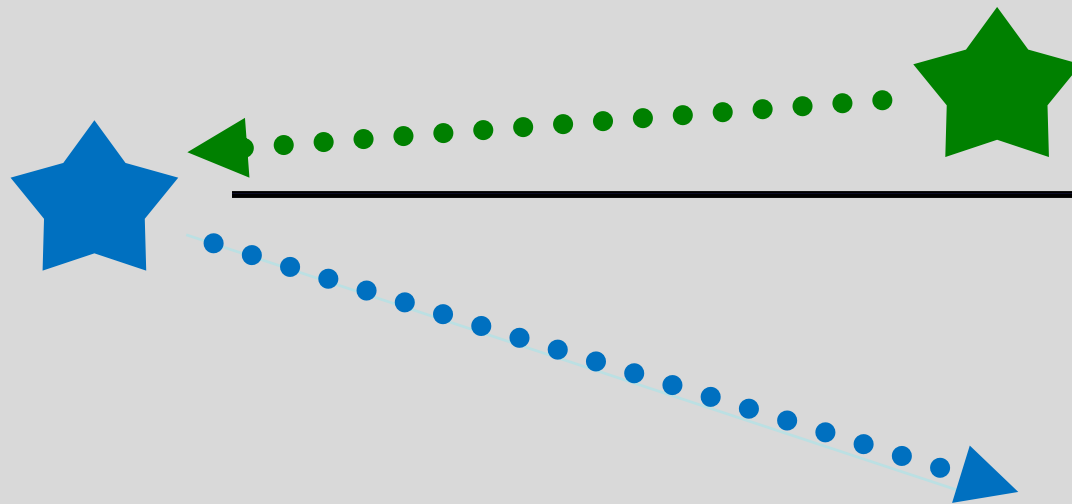
見守りを行う支援者の立ち位置と視点



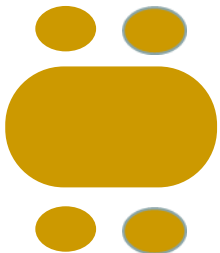
- 死角をなくし、子どもの全体を見る、把握することができるようにする。
- 支援者が誰を見るのか、何を見るのかを決める。
⇒ 連絡ノートへの記入も考えて！



見守りを行う支援者の立ち位置と視点



- 全体把握と個別支援のあり方、役割分担
子どもたちとの距離(立位置)で支援が変わります
- 支援者間の動きの共有
一人で支援をするのではなく、全員の支援者の動きを共有する必要があります。
⇒職員間のコミュニケーションの重要性



子どもたちへの具体的な支援について



自分が思うようにならないこと(見通しを持つことができない)があると感情的になる・・・

- ハピネスキッズでの活動の流れを事前に伝える。
 - ※ 視覚的な資料(イラストなど)の必要性を考える。
 - ※ 一日のスケジュールを伝えるのか？次の活動までを伝えるのか？
- 活動の流れを提示し、がんばったら楽しいこと、好きなこと(ご褒美)があることを伝える。
- 一日の約束事(目標)を決める。
⇒積極的に称賛する！



早く遊びたい！



どこに片付けたらよいのかわからない！



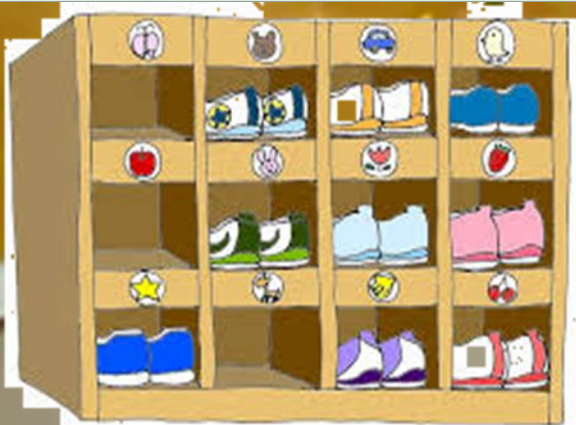
事業所の中に入りたくない理由がある



何をしたらよいのかわからない！



子どもの行動の理由や背景を考えることが重要
⇒ 支援の方法見えてきます



早く遊びたい！



- ・自分がしたいことで頭がいっぱい！
- ・ハピネスキッズでしたいことが明確にある！

- ・したいことができることをきちんと伝えます。
- ・したいことができるまでの流れを明確に伝えます。
⇒見通しを持たせる！

どこに片付けたらよいのかわからない！



- ・靴を片付けないといけないことはわかっている。しかし、片付ける場所がわからない！

- ・「そこに！」「あそこに！」の曖昧な表現はわかりにくい。
- ・「名札を付ける」「番号を付ける」「顔写真を掲示する」など具体的に伝える。

受容と共感

事業所の中に
入りたくない理由がある



- ・嫌なことがあり、気持ちを整理することができていない。
- ・気になる友達がいるからハピネスキッズに入ることが気になる！

- ・気持ちをしっかりと受止め、落ち着くまで無理強いをしない。
- ・気になる友達との距離を考え、行動を促す。

何をしたらよいのか
わからない！



- ・靴を片付けないといけなことの理解が難しい！
- ・支援者が何を伝えようとしているのかわからない。

- ・支援者が一緒にしたり、モデルを見せたりのサポートを行う。
- ・自分でしようとする意欲を積極的に称賛する。

受容と共感

送迎のポイントーきほんの『き』

ドライバー

- 安全運転に心がけ、交通ルールを遵守する。
ドアのロックや窓の開閉、チャイルドロック等の確認を行う。
- 引継ぎ時等は、座席から降り、子どもたちの安全確認等を行う。



添乗者

- 子どもたちの相性や送迎順番等を考えて、座席を決める。
 - 保護者引継ぎでどのような話をするのかを考える。(事前)
 - 子どもの見守りを行い、心身の状態を把握する。
車外に出た時には手をつなぎ、道路側に立つ。
⇒子どもたちの飛び出しを防ぐ。
- ☆交通状況で送迎時間が前後する場合には、連絡をする。

保護者とのかかわりーきほんの『き』

●小さなコミュニケーションを多くする

支援者が保護者と会うのは、送迎のわずかな時間です。

● 笑顔で挨拶！

積極的にかかわることで、保護者も寄り添う気持ちが強くなります。

● 一言でも子どもが楽しそうにしていることや頑張ったこと、成長の様子など、些細なことも伝えましょう。

日々の小さなコミュニケーションの積み重ねが信頼関係を作る大切です。



保護者とのかかわりーきほんの『き』

●言葉づかいに気をつけましょう！

保護者との会話では、親近感を持って言ったつもりでも、保護者は傷ついたり、不快に思ったりすることがあります。気を付けたいことは、子どもについて「〇〇ちゃんはこの子だ」と決めつけたり「失敗や苦手なことを侮辱する」「他の子どもと比較する」などです。

また、お願いや指示をする場合「～して下さい」など上から目線の言い方にも注意です。家庭の事情によってはできないこともあるため、保護者の立場を考える配慮が必要です。

「…していただけるとありがたいのですが」など、丁寧な言葉づかいが大切です。

保護者とのかかわりーきほんの『き』

● マイナスな報告の伝え方に注意しましょう！

よいことだけでなく、子どもの気になる点や問題行動などについても報告しなくてはならないことがあります。

その際は、連絡帳ではなく、口頭で柔らかく伝えることが大切です。「顔を負わせる機会があるのになぜ言わないのか」と不快になりやすいため、マイナスなことほど、事務的な伝え方をしないことがポイントです。



放デイが保護者の信頼を集める10のPoint

『守り』の保護者対応

- Point 1 面談時の対応
- Point 2 連絡ノートでの情報交換
- Point 3 送迎時の引継ぎ
- Point 4 電話連絡時の対応
- Point 5 ペアレント・トレーニング

『攻め』の保護者対応

- Point 6 理念や活動内容の発信
- Point 7 成長の結果の伝達
- Point 8 支援デザイン力のアピール
- Point 9 タイプ別の対応
- Point 10 保護者イベントの企画

【 Point 2 連絡ノートでの情報交換】

- 事実を書いているか？
- その子の姿を書いているか？
- 「支援」と「結果」を書いているか？
- 個別支援計画を意識して書いているか？
- よくないことは、原則書いていないか？
(よくないことは直接引継ぎOR電話で)

◇ サービス提供の記録としての機能

なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

連絡帳は子どものことを見守り、家庭と事業所が**一体となって**適切な療育活動を行うために欠かせないものです。



事業所での子どもたちの様子、活動の内容、頑張り、伸び等...



自宅や学校での子どもたちの様子、体調、保護者からの相談等...



保護者

放デイ事業所と家庭が協力しあうことで、子どもに対してよりよい療育活動行うことができます。

なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

連絡ノートには支援者が**保護者の子育てをサポートをする役割**があります。



事業所での子どもたちの様子、活動の内容、頑張り、伸び等...



自宅や学校での子どもたちの様子、体調、保護者からの相談等...



保護者

保護者および家庭、学校との緊密な連携をとり、必要な時に必要な支援を行うことは支援者の大切な役割です。連絡ノートは**家庭と事業所を結ぶ架け橋の役割を果たします。**

連絡ノートへの配慮と文章表現の工夫

5W1Hを意識する

質問や疑問には必ず答える

プラス思考で書く

友だちと比べる書き方はしない

エピソードを入れるとわかりやすい

具体的に手立てを書く

発達を押さえて書く・行動の意味づけを

保護者を不安にしない（保護者への心遣いをさりげなく）

なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

5W1Hを意識する

When… いつ

Where… どこで

Why… なぜ

Who …だれが

What …なにを

How …どのように

例えば「〇〇くんが紙飛行機で遊びました」よりも、「〇〇くんと△△さんが自由時間に紙飛行機を作ってどっちが良く飛ぶか競争しました」と書いた方が、園児の状況が良く分かります。



なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

プラス思考で書く

×「にんじんを残しました」

→○「にんじんが苦手だったのですが、一口だけ頑張って食べられました！」

×「お友達とおもちゃの取り合いで大泣きしました」

→○「友達と大好きな電車のおもちゃのことでトラブルになりましたが、きちんと納得し、交代で使うことができました」

なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

友だちと比べる書き方はしない

子どもの発達には個人差があります。発達が早い子どももいれば、遅い子どももいます。

そのため、子ども一人ひとりの発達の状態に即した援助や指導が支援者に求められます。他の子どもと比べて、何が足りない・できないということではなく、その子のよさや育ちの様子をきめ細かく捉え、保護者に伝えるようにしましょう。

なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

発達を押さえて書く・行動の意味づけを



子どもの発達課題に応じた支援

子どもは人として生る権利、守られる権利、自決権利、参加する権利を持っている。
この権利を尊重することと同時に、子どもの発達段階に応じた支援が大人には求められます。

1 誕生から 15-18ヶ月	2 15-18ヶ月 から3-4歳	3 3-4歳から 6歳	4 小学生時代	5 中学生から 成人
乳児期	幼児期	園児期	児童期	青年期
基本的信頼 対 不信	自律性 対 恥、疑念	積極性 対 罪悪感	勤勉 対 劣等感	同一性 対 同一性拡散

【 Point 3 送迎時の引継ぎ】

- ☐ ノートの内容を口頭で伝えているか？
- ☐ 保護者の相談ごとを引き出しているか？
- ☐ **本人の新たな情報を引き出しているか？**
- ☐ 保護者と距離感が近くなっているか？
- ☐ 今日の子どもの成長を伝えているか？
- ☐ 最近の子どもの成長を伝えているか？

